

# 【別紙 1】燃料輸送車など安全走行について

## 【意見書】①⑱㉓㉔補足資料

1/2

燃料輸送車だけでなく、他の車両もカーブの手前では、運転手は対向車がない事など安全確認をして、路肩との安全な距離を取って大回りして通行する。歩行者がいる場合も安全な距離を確保する為に同様な通行を行う。

写真A



写真A



撮影者がいるので、対向車がない事を確認して安全な距離を取って通行

カーブの手前で対向車を確認した場合は、安全を確保する為、一旦停止して対向車が通り過ぎてから走行する





# 【別紙 2】燃料輸送車と観光バスと大きさ比較

## 【意見書】②補足資料：D

カーブの手前で対向車を確認した場合は、安全を確保する為、一旦停止して対向車が通り過ぎてから走行する

全高  
約  
3.8  
m



車幅 約2.5m



全長 約14m

車高  
約  
3.8  
m



車幅約2.5m

車幅約12m







# G-B i o石巻須江発電事業 令和 4 年繁殖シーズンの事後調査（猛禽類）結果について（概要版）

パシフィックコンサルタンツ株式会社 2022 年 9 月 30 日

## 調査目的

本業務は、宮城県環境影響評価条例手続の結果により、猛禽類のノスリについて事業実施に伴う工事の影響に関するモニタリング調査が義務づけられていることから、対象事業計画地及びその周辺におけるノスリを含む希少猛禽類の生息状況及び繁殖状況を把握するための調査を実施したものである。

以下に、環境影響評価書の記載内容を示す。

表 評価書記載内容（猛禽類部分のみ）

記載箇所・記載表等	記載内容
評価書 表 8.1-1(3) 事後調査の検討結果(3/3)	猛禽類の繁殖については年次変化があることを踏まえ、繁殖が確認されたノスリ以外の種が工事着工までに生息する可能性は否定できず、その生息状況への影響が懸念される動物（重要な種及び注目すべき生息地_ことから、事後調査を実施するものとする。
要約書 表 8.2-1(1) 事後調査計画(1/2)	事後調査計画・定点調査 調査方法は、現況調査の定点調査と同様とする。
建設機械の稼働及び造成等の施工による一時的な影響・動物のうち、鳥類（猛禽類）の生息状況	調査地点：現況調査で使用した定点のうち 5 定点程度 調査時期：工事着手前（令和 4 年 8 月までの繁殖が確認できると想定される時期）の繁殖期とする。 ・営巣地確認調査 調査方法は、現況調査の営巣地確認調査と同様とする。 調査地点：定点調査で営巣が疑われる調査地域 調査時期：工事着手前（令和 4 年 8 月までの繁殖が確認できると想定される時期）の繁殖期とする。 ・環境保全措置の再検討：上記の調査結果を踏まえ、必要に応じて、さらなる事後調査及び環境保全措置の実施を検討する。
建設機械の稼働及び造成等の施工による一時的な影響・生態系（地域を特徴づける生態系）のうち、上位性に係る猛禽類の生息状況	・人工代替巣の設置 設置方法：類似の事例を参考に設置する。 設置地点：対象事業実施区域内の残置森林とする。 設置時期：工事着手前の非繁殖期とする。 ・生息状況の確認 調査方法は、現況調査の定点調査及び営巣地確認調査と同様とする。 調査地点：現況調査で使用した定点のうち 5 定点程度 ・人工代替巣利用状況確認調査 設置した人工代替巣 調査期間：人工代替巣設置後の繁殖期とする。 ・環境保全措置の再検討：上記の調査結果を踏まえ、必要に応じて、さらなる事後調査及び環境保全措置の実施を検討する

今年度の調査では、令和 4 年に実施した古巣蓋掛け後の利用状況及び着工前の事前調査結果に変化がないことを確認することを目的としてモニタリング調査を実施した。

## 調査実施状況

現地調査は、着工前の事前調査として、定点調査を令和 5 年 3 月、5 月、7 月の 3 回実施した。

調査日数及び調査定点数は以下のとおりである。

表 調査実施状況

調査項目	調査年月	調査日	調査時間	天候	調査定点数（使用定点）	
定点調査	令和 4 年 4 月	11 日	8:00~16:00	晴れ	5 地点 (St.1、St.4、St.5、St.8、St.11)	
		12 日	8:00~16:00	晴れ		
		13 日	8:00~16:00	晴れ		
		16 日	8:00~16:00	曇り		
	令和 4 年 5 月	17 日	8:00~16:00	曇り		
		18 日	8:00~16:00	曇り		
	令和 4 年 6 月	14 日	8:00~16:00	曇り一時晴れ		
		15 日	8:00~16:00	曇り一時雨		
		16 日	8:00~16:00	晴れ一時曇り		
		11 日	8:00~16:00	曇り		
	令和 4 年 7 月	12 日	8:00~16:00	曇り一時晴れ		5 地点 (St.1、St.3、St.4、St.5、St.8)
		13 日	5:00~13:00	雨		
	令和 4 年 8 月	1 日	8:00~16:00	晴れ		
		2 日	8:00~16:00	晴れ		
3 日		5:00~13:00	曇りのち雨			
営巣確認調査	令和 4 年 6 月	16 日	8:00~16:00	晴れ一時曇り	ノスリ営巣地 4 箇所 オオタカ古巣 1 箇所 ノスリ営巣地 4 箇所	
	令和 4 年 7 月	13 日	5:00~13:00	雨		

以下に、主要な調査対象種であるオオタカ、ノスリ及びハヤブサの繁殖サイクルを示す。

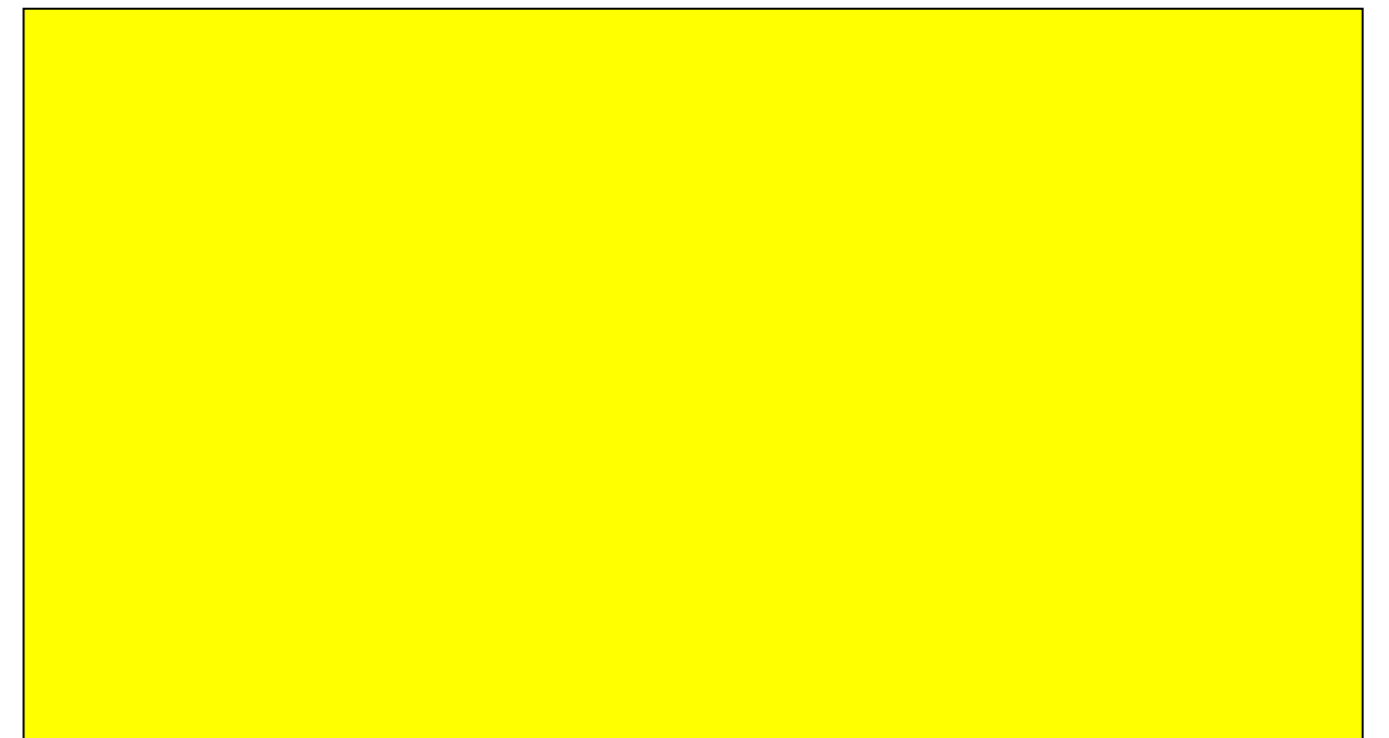


図 オオタカ、ノスリ及びハヤブサの繁殖サイクル

調査結果

1. ノスリ

ノスリの指標行動としては以下の通り、調査期間を通して多く確認され、繁殖に利用していた営巣地 4 箇所を確認した。

- ・4月：狩りが9回、餌運搬が2回、交尾が2回
- ・5月：狩りが5回、餌運搬が10回
- ・6月：狩りが2回、餌運搬が9回、巣材運搬が2回
- ・7月：狩りが3回、餌運搬が3回

過年度には事業地内での営巣地が確認されていたが、令和4年繁殖期の現地調査で確認された営巣地4箇所はいずれも事業地外の周辺地域であった。

確認された4箇所のノスリ営巣地について、繁殖状況を整理した。

表 繁殖状況（ノスリ）

営巣地	繁殖状況	結果
St.1 北東 [ ] ペア	・6月調査時には繁殖継続中 ・7月調査時には成鳥や幼鳥の飛翔なく、巣及びその周辺の周辺に羽毛やフン等の痕跡なし	巣内育雛期の段階で繁殖失敗
St.4 南南西 [ ] ペア	・6月調査時には繁殖途中で失敗した可能性 ・7月調査時には成鳥や幼鳥の飛翔なく、巣及びその雛初期の段階で繁殖失敗の周辺に羽毛やフン等の痕跡なし	抱卵期あるいは巣内育雛失敗
St.5 北西 [ ] ペア	・6月調査時には繁殖継続中 ・7月調査時には成鳥や幼鳥の飛翔なく、巣及びその周辺の周辺にも羽毛やフン等の痕跡なし	巣内育雛期の段階で繁殖失敗
St.5 南西 [ ]	・6月調査時には繁殖継続中 ・7月調査時には幼鳥の姿は確認できなかったものの、成鳥による営巣林付近への餌運搬が複数回確認され、既に巣立ったノスリ幼鳥が営巣林内で餌を受け取っていたものと考えられた	今年度繁殖成功

② ハヤブサ

ハヤブサは、[ ] 過年度に繁殖が確認されていたが、今年度の調査でも [ ] 中心に、調査期間内の毎月確認されていた。特に4月には18例と多くの飛翔等が確認され、餌運搬も2回確認されたことから、今シーズンも [ ] 繁殖する可能性が考えられた。しかし、5月以降は確認回数も2~4例と少なくなり、繁殖関連行動も確認されなかったことから、令和4年度繁殖シーズンは、ハヤブサは産卵期~育雛初期頃までは繁殖活動を行っていた可能性が示唆されたものの、繁殖失敗したものと考えられた。

③ オオタカ

オオタカの指標行動は確認されなかった。調査期間中の確認例数は2回と少なく、餌運搬等の繁殖関連行動も確認されなかったことから、令和4年度繁殖シーズン、オオタカは対象事業による影響範囲では繁殖していないと考えられた。

④ チョウゲンボウ

チョウゲンボウの指標行動としては、調査範囲一帯の農耕地での狩り行動が多く確認されたほか、餌運搬が4月に1回、5月に2回、6月に2回の合計5回確認された。そのうち、5月と6月の各1回は [ ] 付近での消失であり、その付近で繁殖している可能性も示唆される。一般的にチョウゲンボウは、崖の横穴や岩の隙間、カラスの古巣や木の洞などで営巣するが、近年では橋や建物などの人工構造物を利用する例が多くなっていることから、本地域での繁殖場所も人工構造物を利用して繁殖している可能性が考えられるが、営巣地の特定には至らなかった。

その他、ミサゴ、サシバ、ハイタカについては、対象事業による影響範囲では繁殖していないと考えられた。

表 確認種一覧（重要種選定根拠）

目名	科名	種名	環境影響 評価時	重要種選定根拠			
				①	②	③	④
タカ	ミサゴ	ミサゴ	○			NT	B
		ハイタカ				NT	C
	タカ	オオタカ	○			NT	B
		サシバ				VU	B
ハヤブサ	ハヤブサ	ノスリ	○				D
		ハヤブサ	○		国内	VU	A
		チョウゲンボウ	○				D
計	3科	7種	5種	0種	1種	5種	7種

- 注1) 種名、配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和2年度)」(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)に準拠した。  
 2) 表中の数字は確認回数を示す。  
 3) 重要種の選定資料は下記のとおり。  
 ① 文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき指定された天然記念物  
 ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)に基づき定められた国内希少野生動物種  
 国内：国内希少野生動物種  
 ③ 環境省報道発表資料「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月)の掲載種  
 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧  
 ④ 宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト2023年版(2023年3月28日掲載)  
 NT：準絶滅危惧

表 確認種一覧（確認回数）

種名	4月	5月	6月	7月	8月	合計
ミサゴ	0	1	1	1	1	4
ハイタカ	2	0	0	0	0	2
オオタカ	1	0	1	0	0	2
サシバ	1	1	0	0	0	2
ノスリ	68	42	25	17	17	169
ハヤブサ	18	2	4	3	2	29
チョウゲンボウ	3	9	5	4	3	24



## 学識者ヒアリング結果

### ① 過年度のヒアリング結果

過年度、準備書での審査会の前段階で、XXXXXXXXXX先生に個別相談を行っているが、その時にXXXXXXXXXX事後調査についての指摘事項は、下記の2項目であった。

- ① 国道 108 号アセス報告でオオタカが確認されているので、この内容を確認し、オオタカを含めた行動を工事前に確認しておくこと。
- ② 生態系の上位種であるノスリの保全として人工代替巣の設置と、ノスリの状況を確認する事。この時にも同時に定点調査を行いオオタカの行動も確認しておいた方がよい。

上記の指摘事項を踏まえた本調査における対応方針を以下に示す。

- ① 工事前にオオタカを含めた繁殖期(4~8月)の定点調査を行う。
- ② 工事前(9月以降)に人工代替巣を設置し、代替巣の利用状況確認調査を実施する。
- ③ 上記調査と同時にオオタカを含めた生息確認を実施する。
- ④ オオタカ調査にあたっては、国道 108 号アセスの内容を考慮する。
- ⑤ 猛禽類の事後調査内容は、評価書記載の工事着工前の 1 繁殖期と、代替巣利用状況確認調査とする。

### ② 今年度のヒアリング結果

工事着手前の最新の繁殖状況を確認するための今回調査結果では、XXXXXXXXXXノスリの営巣木は確認されず、代替巣の設置の前提条件が環境影響評価時と異なっていることから、代替巣設置の時期について、XXXXXXXXXX先生にご意見を伺ったところ、令和 4 年 7 月 12 日に以下の内容のご助言を頂いた。XXXXXXXXXX先生に提示した資料は資料編に示す。

※XXXXXXXXXX先生からのご助言内容(令和 4 年 7 月 12 日)

今期は事業区域内で繁殖していないこと、ノスリは周辺の影響範囲外に営巣地があることから、当面人工巣は不要とします。今後、着工までに年数がかかる場合には、引き続き事業区域内の猛禽類の営巣確認調査が必要です。着工前年秋には古巣にフタをして使用できないようにし、工事完了後にはフタを取るのがよいです。

## 今後の方針等

本調査は工事着手前の調査である。今年度の調査結果を踏まえた学識者ヒアリングの結果、今期は事業区域内で繁殖していないこと、ノスリは周辺の影響範囲外に営巣地があることから、当面人工巣は不要となったが、今後も引き続き事業区域内の猛禽類の営巣確認調査が必要である。また、工事着手前に既存巣の蓋がけを行い、事業地内の営巣地の利用抑制を行う必要がある。

これまでの調査において、XXXXXXXXXXで生息が確認された希少猛禽類は、ミサゴ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサの 7 種であり、そのうち繁殖が確認された種はノスリ 1 種である。これらの希少猛禽類は、営巣地を替えて繁殖する可能性があるため、工事着手前に繁殖状況調査を実施し、新たに営巣が確認された場合には、専門家の指導・助言を得ながら、必要に応じて適切な環境保全措置を講じる方針であり、詳細な実施内容については、専門家の指導・助言を得て決定する。

特に、過年度にXXXXXXXXXXで繁殖が確認されていたノスリについては、今後、営巣場所が対象事業実施区域内に移動してくる可能性があることから、工事着手段階での保全措置の必要性検討に資する基礎データを得る目的で繁殖や営巣地移動の有無を把握する必要がある。

### ① 調査目的

令和 5 年繁殖期前に事業地内の営巣地に蓋がけを行うとともに、令和 5 年繁殖期の繁殖状況を把握し、新たな保全対策等の対応が必要な状況が発生していないことを確認する必要がある。また、代替巣の設置が引き続き不要な状況(令和 4 年と同様に、XXXXXXXXXXにのみノスリが複数ペア繁殖している)であることを確認する必要がある。

### ② 調査方法

蓋がけ作業は、既知の営巣木に登攀し、巣を利用できないようにロープ等を設置する。

定点調査では、設定した定点において、目視により出現状況、飛翔経路等を確認する定点調査により実施する。また、営巣の可能性が考えられる調査地域において林内踏査を行い、営巣地を確認する。

### ③ 調査時期及び数量

調査時期及び数量等を以下に示す。

表 調査時期及び数量等

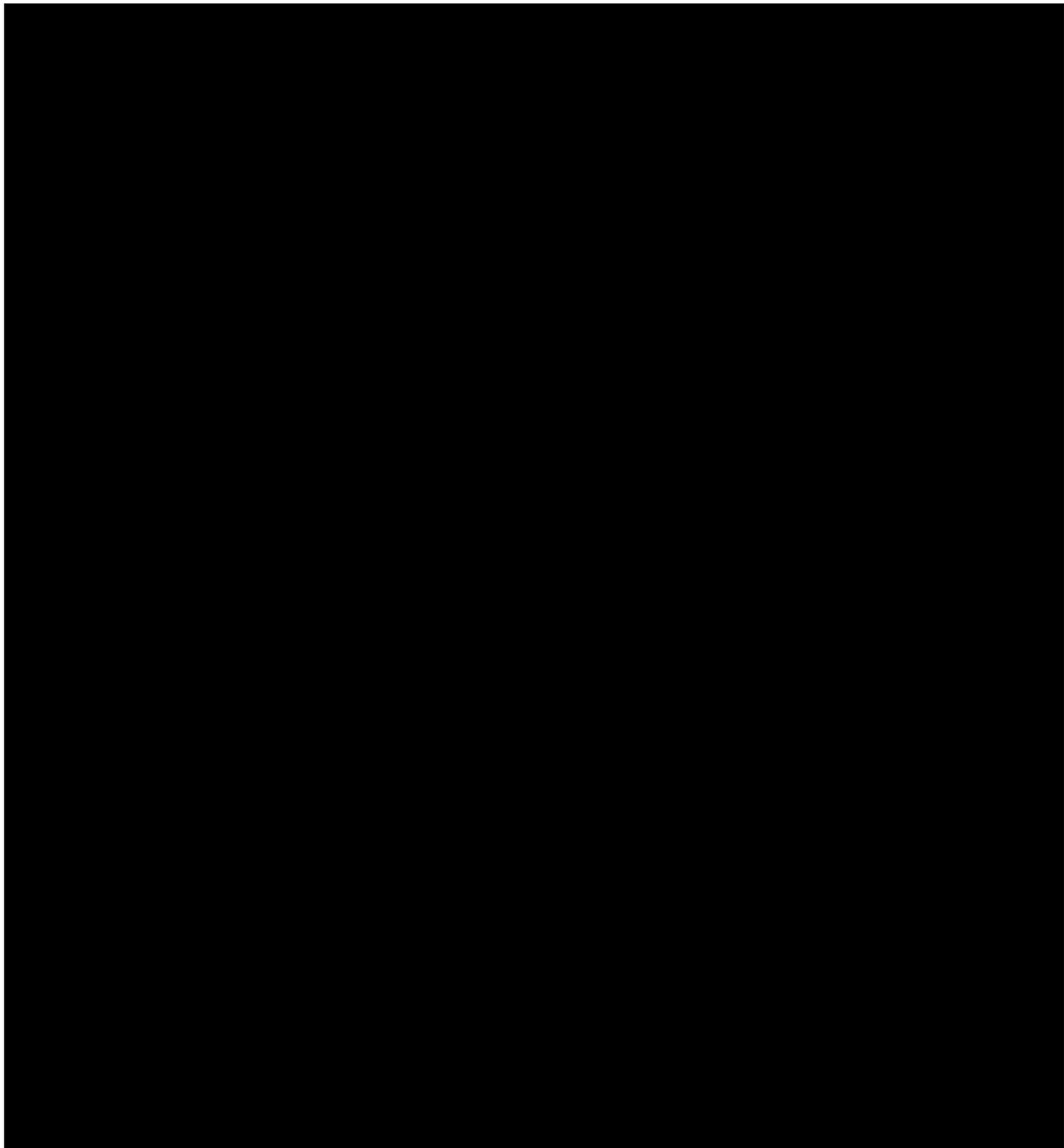
調査項目	調査時期	数量	備考
定点調査	令和 5 年 3 月、5 月、7 月	5 定点×3 日×3 回	希少猛禽類の造巣期~巣外育雛期
営巣確認調査	令和 5 年 5 月、7 月	2 人×1 日×2 回	希少猛禽類の抱卵・巣内育雛期~巣外育雛期

注 1) 今年度の定点調査は 4 月から開始したが、産卵前の繁殖関連行動を確認することで営巣状況を効果的に把握可能となるオオタカ及びハヤブサの繁殖確認のため、次年度は 3 月からの調査開始を提案する。

注 2) 使用定点は今年度の現地調査時に使用した定点を基本とするが、最新の現地状況や、猛禽類の生息状況に応じて検討し協議の上決定する。

注 3) 林内踏査実施箇所は、定点調査により猛禽類の営巣の可能性が考えられる箇所を抽出し決定する。





海外の報告ではノスリの巣間距離は 1 kmとの報告があり、国内の猛禽類保護の進め方では影響距離が 300m 弱～400m 強との記載があり、図中には各営巣地から 400m と 1 kmの円を記載した。

図 ノスリ営巣地位置



R4-1 ノスリ巣 ( )  
2022.7.11 撮影

R4-2 ノスリ巣 ( )  
2022.7.11 撮影



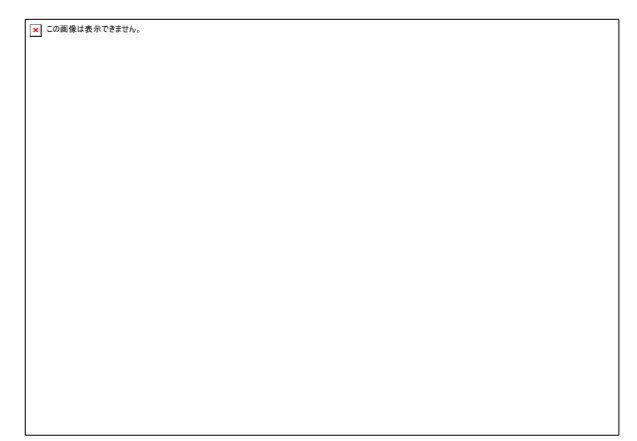
R4-3 ノスリ巣 ( )  
2022.7.11 撮影



R4-4 ノスリ巣 ( )  
2022.7.12 撮影



ノスリ成鳥  
2022.6.16 撮影



ノスリ成鳥 餌運搬  
2023.5.18 撮影

【別紙4-2】注) 重要種保護の目的に係る情報は公表いたしません。

## G-B i o石巻須江発電事業 令和5年繁殖シーズンの事後調査（猛禽類）結果について（概要版）

パシフィックコンサルタンツ株式会社 2023年9月28日

### 調査目的

本調査は、宮城県環境影響評価条例手続の結果により、猛禽類のノスリについて事業実施に伴う工事の影響に関するモニタリング調査が義務づけられていることから実施している調査である。

令和4年調査の結果、事業地内にノスリ古巣は残存するが、繁殖には至っていなかったため、宮城県及び学識者への意見聴取を実施し、当面人工代替巣設置は不要となったことから、学識者の意見を踏まえ、令和4年11月に古巣への蓋掛けを実施した。

宮城県及び学識者への意見聴取結果を以下に示す。

表 今後の方針について意見聴取結果

意見聴取先	先生
意見聴取方法	メールにて実施
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年6月までの調査では、ノスリの営巣が確認されていない。この状況で、残置森林に代替巣を設けることでノスリを誘引する可能性を危惧しており、代替巣の設置のタイミングとして工事開始前ではなく、工事完了後・施設供用開始時に変更したい。このことについて見解が欲しい。</li> <li>今回の調査結果では、事業区域内で営巣していないことから事業実施による影響は少ないと考えられ、工事完了後の代替巣の設置そのものが適切なものか（設置しなくても良いのではないかと考えられる。</li> </ul>
意見内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期は<u>事業区域内で繁殖していないこと</u>、ノスリは周辺の影響範囲外に営巣地があることから、<u>当面人工巣は不要</u>とする。</li> <li>今後、<u>着工までに年数がかかる場合には、引き続き事業区域内の猛禽類の営巣確認調査が必要。</u></li> <li><u>着工前年秋には古巣にフタをして使用できないようにし、工事完了後にはフタを取る</u>のがよい。</li> </ul>

今年度の調査では、令和4年に実施した古巣蓋掛け後の利用状況及び着工前の事前調査結果に変化がないことを確認することを目的としてモニタリング調査を実施した。

### 調査実施状況

現地調査は、着工前の事前調査として、定点調査を令和5年3月、5月、7月の3回実施した。調査日数及び調査定点数は以下のとおりである。

表 調査実施状況

調査年月	調査日	調査時間	天候	調査定点数（使用定点）
令和5年3月	30日	8:00~16:00	晴れ	3地点（St.1、St.4、St.11）
	31日	8:00~16:00	晴れ	3地点（St.1、St.4、St.11）
令和5年5月	15日	8:00~16:00	雨時々曇り	3地点（St.1、St.4、St.11）
	16日	8:00~16:00	晴れ	3地点（St.1、St.4、St.11）
令和5年7月	6日	8:00~16:00	曇り後晴れ	3地点（St.1、St.4、St.11）

以下に、主要な調査対象種であるオオタカ、ノスリ及びハヤブサの繁殖サイクルを示す。

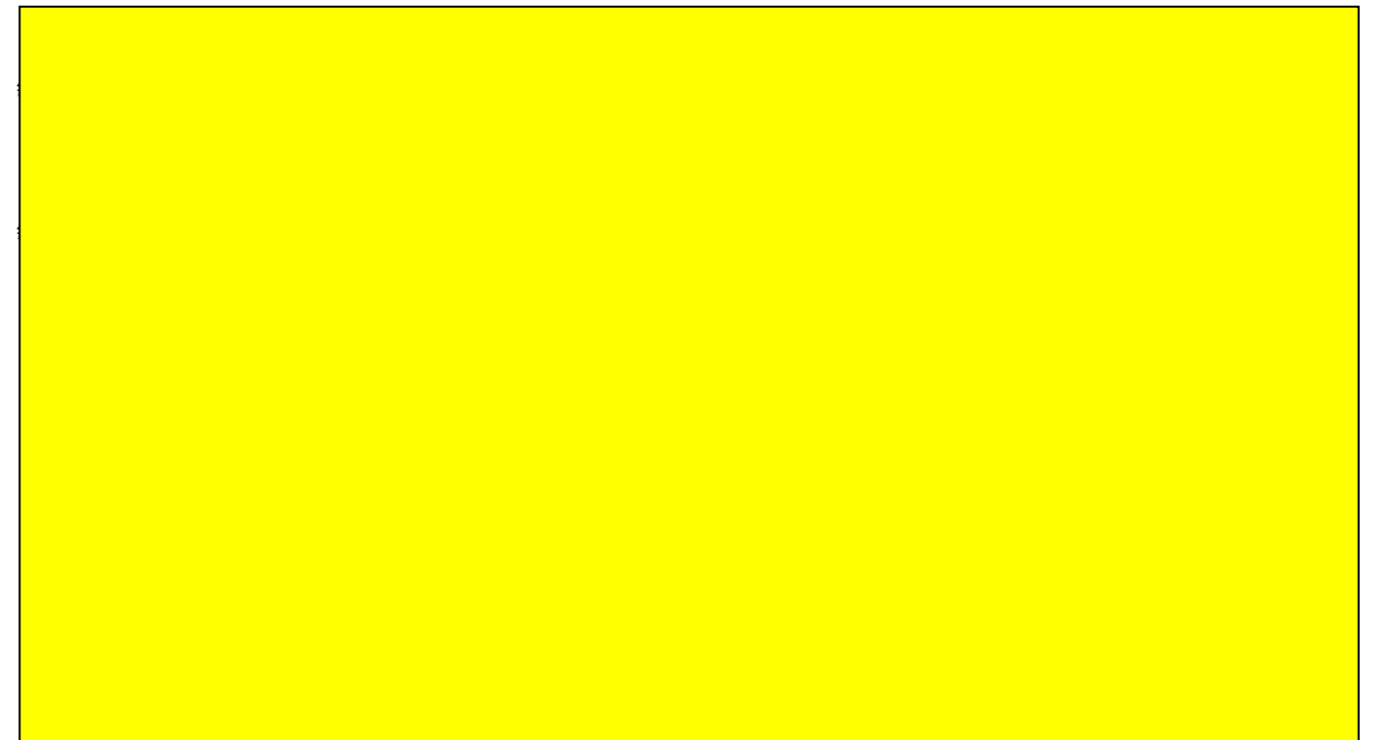


図 オオタカ、ノスリ及びハヤブサの繁殖サイクル



調査結果

1. ノスリ

定点調査の結果、4 ペアとも昨年と同じ営巣林周辺で巣立ち幼鳥や親鳥による餌運搬行動が確認され、いずれの巣下においてもフン痕が確認されたことから、**4 ペアとも昨年と同じ巣で繁殖成功したと判断した。**

昨年の 11 月に蓋掛けした [ ] においては、**利用の痕跡（新たな巣材の積み増し等）は確認されなかった。**

2. ハヤブサ

3 月調査時に複数回の交尾を確認、5 調査では抱卵または抱雛を行っていると考えられる行動（長時間の雌の滞在や雄による複数回の餌持ち込み）を確認、7 月調査では巣立った幼鳥 3 個体を確認した。

過年度までの調査では繁殖途中で失敗が続いていたが、**毎年繁殖行動が確認されていた [ ] において、繁殖成功が確認された。**

3. チョウゲンボウ

5 月調査では、主に調査範囲東側の [ ] 南東付近で餌運搬行動や排他行動が見られていたことから、その周辺で繁殖している可能性が高いと考えられ、7 月調査でも St.1 付近の水田で餌運搬行動 1 例を確認したが、**営巣地の特定までは至らなかった。**

調査範囲一帯では、過年度の調査においても複数例の採餌行動や餌運搬行動が確認されており、今年度も営巣地の特定には至らなかったものの、**調査範囲一帯の人工構造物を利用して繁殖活動を行っていた可能性が考えられる。**

その他、ミサゴ、ハイタカについては、繁殖関連行動は確認されず、主要な調査対象種であるオオタカは確認されなかった。

表 確認種一覧（重要種選定根拠）

目名	科名	種名	重要種選定根拠			
			①	②	③	④
タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	
	タカ	ハイタカ			NT	NT
		ノスリ				
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	国内	VU		NT
		チョウゲンボウ				
2 目	3 科	5 種	0 種	1 種	3 種	2 種

注 1) 種名、配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 2 年度)」(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)に準拠した。

2) 表中の数字は確認回数を示す。

3) 重要種の選定資料は下記のとおり。

- ① 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づき指定された天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づき定められた国内希少野生動植物種  
国内：国内希少野生動植物種
- ③ 環境省報道発表資料「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年 3 月)の掲載種  
VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧
- ④ 宮城県希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2023 年版 (2023 年 3 月 28 日掲載)  
NT：準絶滅危惧

表 確認種一覧（確認回数）

種名	R5 年 3 月		R5 年 5 月		R5 年 7 月	合計
	30 日	31 日	15 日	16 日	6 日	
ミサゴ	1	0	0	0	0	1
ハイタカ	1	1	0	0	0	2
ノスリ	12	12	11	9	11	55
ハヤブサ	11	10	8	2	7	38
チョウゲンボウ	0	0	4	2	1	7
計	25	23	23	13	19	103

今後の方針等

今年度の調査の結果、昨年度と同じ営巣林・巣においてノスリ 4 ペア及びハヤブサ 1 ペアの繁殖が確認されたが、**確認された営巣地はいずれも事業地外の、事業による影響が想定されない地域**であった。

ただし、ノスリ等の希少猛禽類は、営巣地を替えて繁殖する可能性があるため、**工事実施中となる次年度繁殖期以降も繁殖状況調査を実施し、新たに影響範囲において営巣が確認された場合には、学識者の指導・助言を得ながら、必要に応じて適切な環境保全措置を講じる方針**としている。

【R6 年の調査方針】

これまでに確認されている営巣地が R6 年も継続的に利用されていること、事業地内に新たな営巣地が存在しないことを確認することを目的として、**今年度と同様の内容でモニタリング調査を実施する方針**である。

表 調査時期及び数量等（令和 6 年繁殖期）

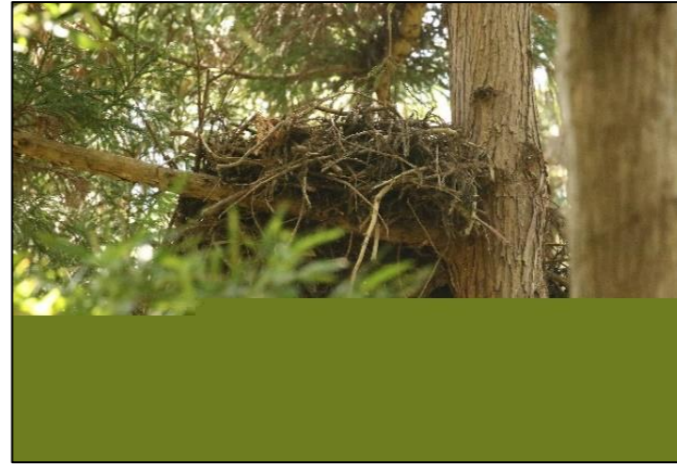
調査項目	調査時期	数量	備考
定点調査 (工事中の営巣確認・影響確認調査)	令和 6 年 3 月	3 定点×2 日	希少猛禽類の造巣期～巣外育雛期 ※工事中にも、令和 5 年に確認した営巣地が継続的に利用されていること、事業地内に新たな営巣地が存在しないことを確認することを目的としてモニタリング調査を実施
	令和 6 年 5 月	3 定点×2 日	
	令和 6 年 7 月	3 定点×1 日	

【参考】

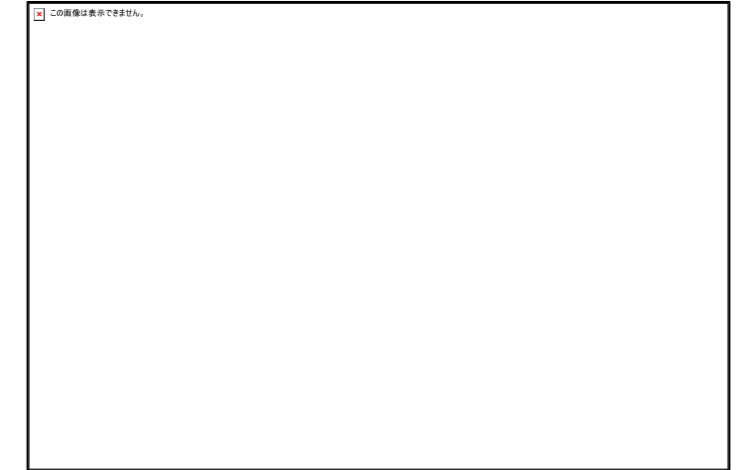
令和 5 年の調査結果について、猛禽類ご専門である [ ] 先生にご意見を伺ったところ、以下の内容のご助言を頂いた。

※ [ ] 先生からの主なご助言内容（令和 5 年 9 月 18 日）

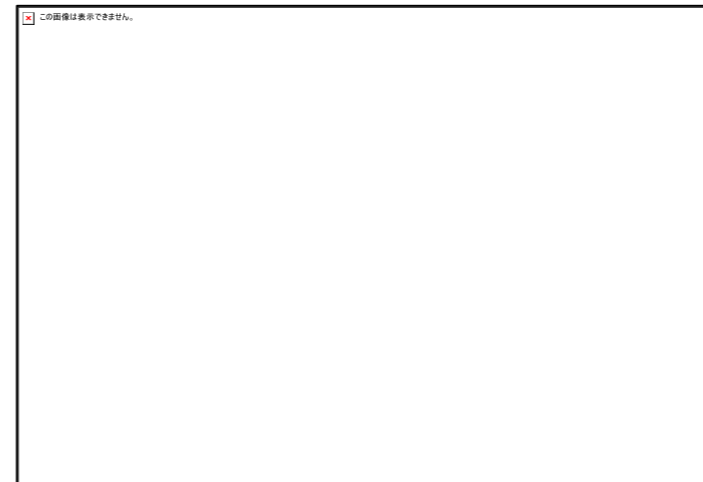
- ・ノスリ 4 ペア、ハヤブサ 1 ペアの営巣地での繁殖成功を確認し、いずれのペアも事業区域内での行動が無かったことが分かった。これらのペアへの工事の影響は当面は想定されないことでよい。
- ・ノスリ旧巣及びその周辺でのノスリの行動は無かったことから、現段階では人工巣の設置は不要であることでよい。
- ・次年度調査は計画通りの実施でよい。



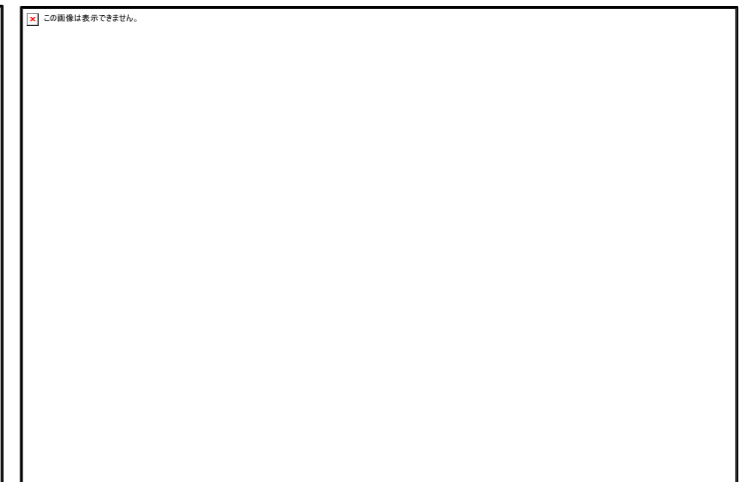
R4-1 ノスリ巣 [redacted]  
2023.7.6 撮影



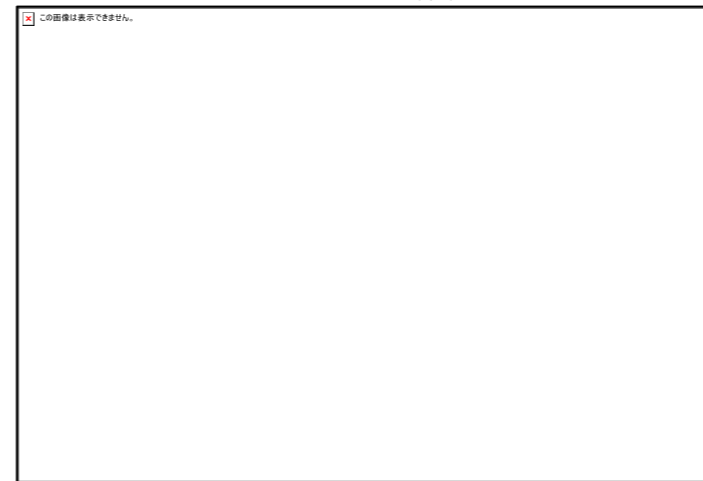
R4-2 ノスリ巣 [redacted]  
2023.7.6 撮影



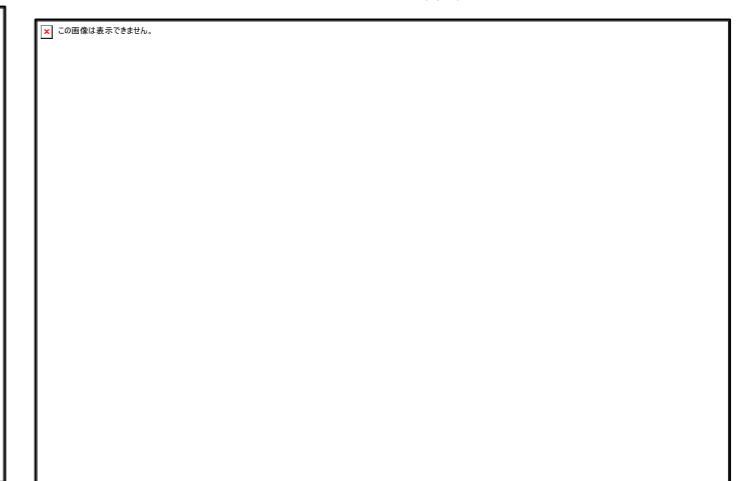
R4-3 ノスリ巣 [redacted]  
2023.7.6 撮影



R4-4 ノスリ巣 [redacted]  
2023.7.6 撮影

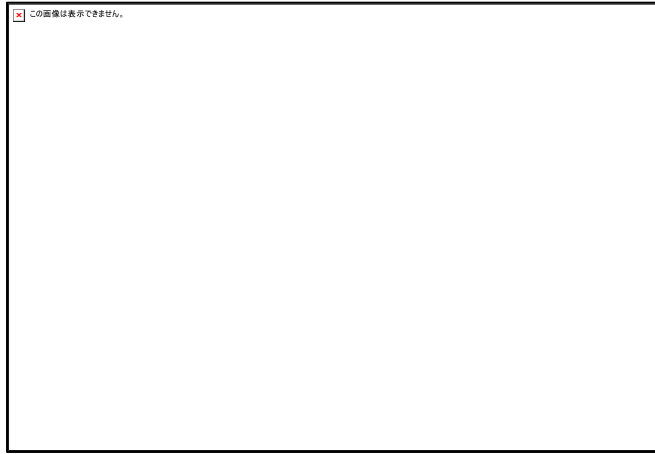


R1-1 ノスリ蓋掛け巣（使用痕跡無し）  
2023.7.6 撮影

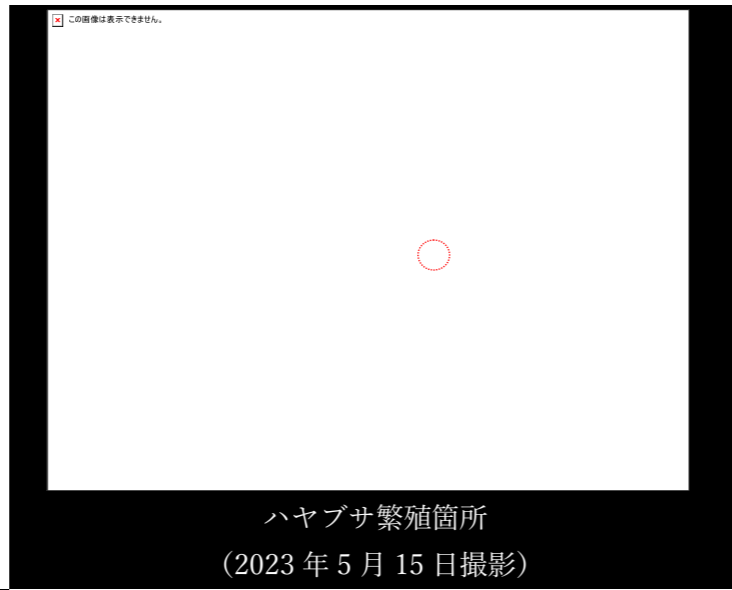


ノスリ成鳥 餌運搬 [redacted]  
2023.7.6 撮影





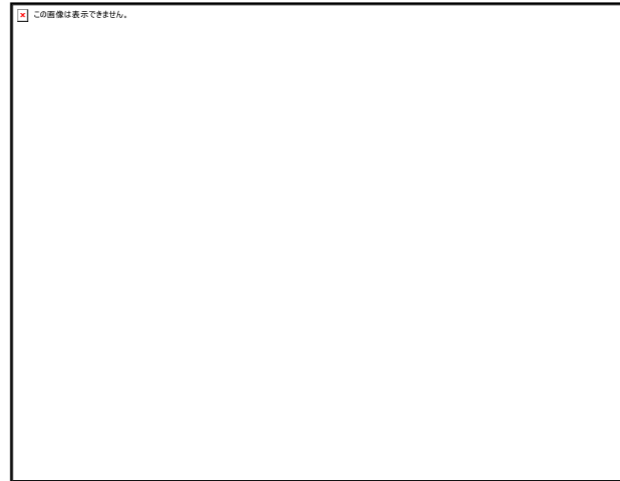
ハヤブサ雄（右）から雌（左）への餌渡し  
(2023年5月15日撮影)



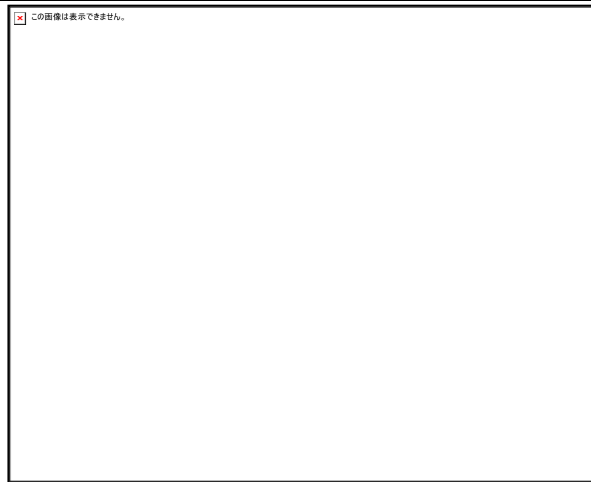
ハヤブサ繁殖箇所  
(2023年5月15日撮影)



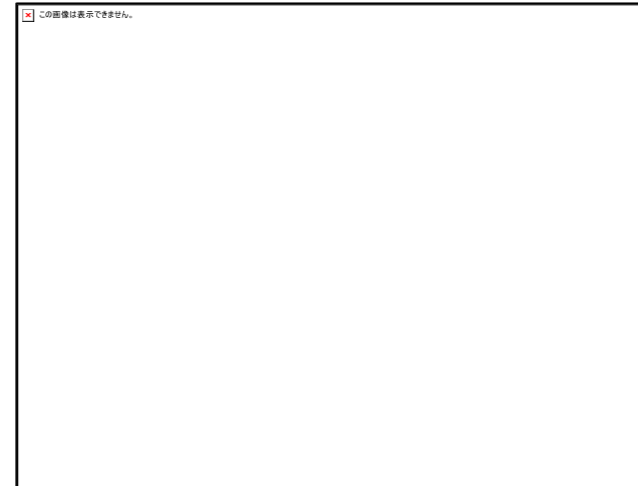
ハヤブサ幼鳥  
2023.7.6 撮影



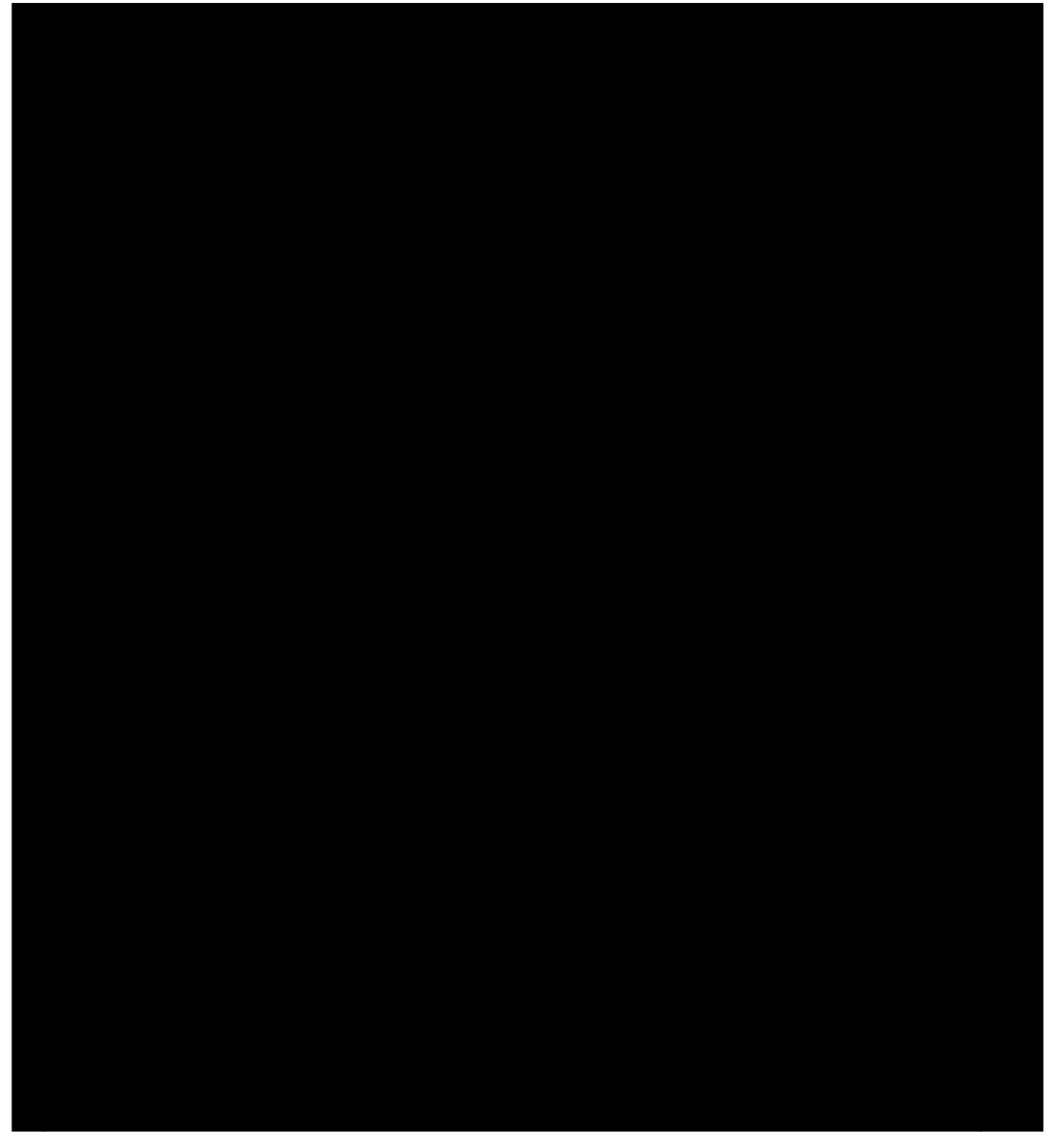
ミサゴ  
(2023年3月30日撮影)

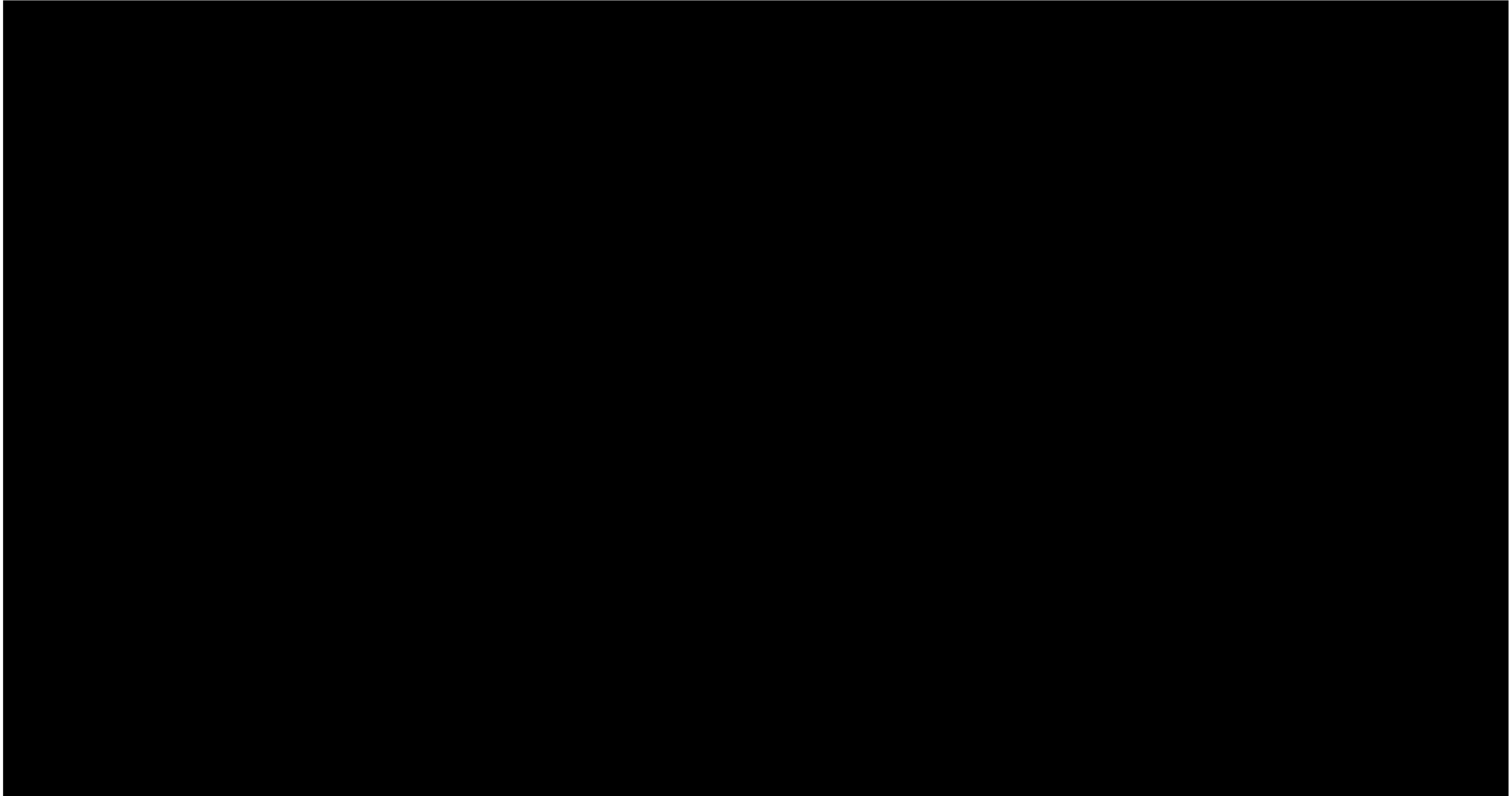


ハイタカ  
(2023年3月30日撮影)

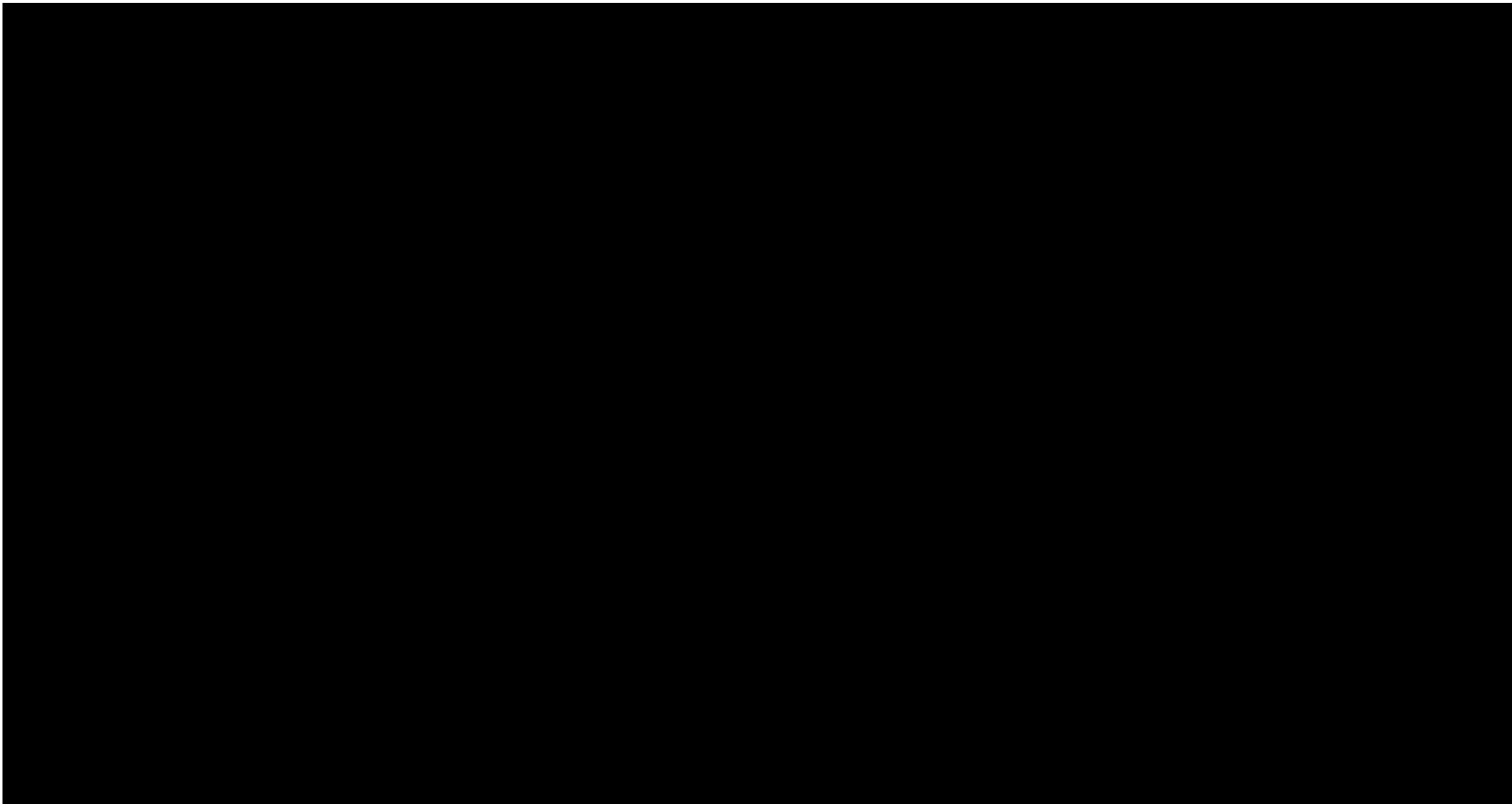


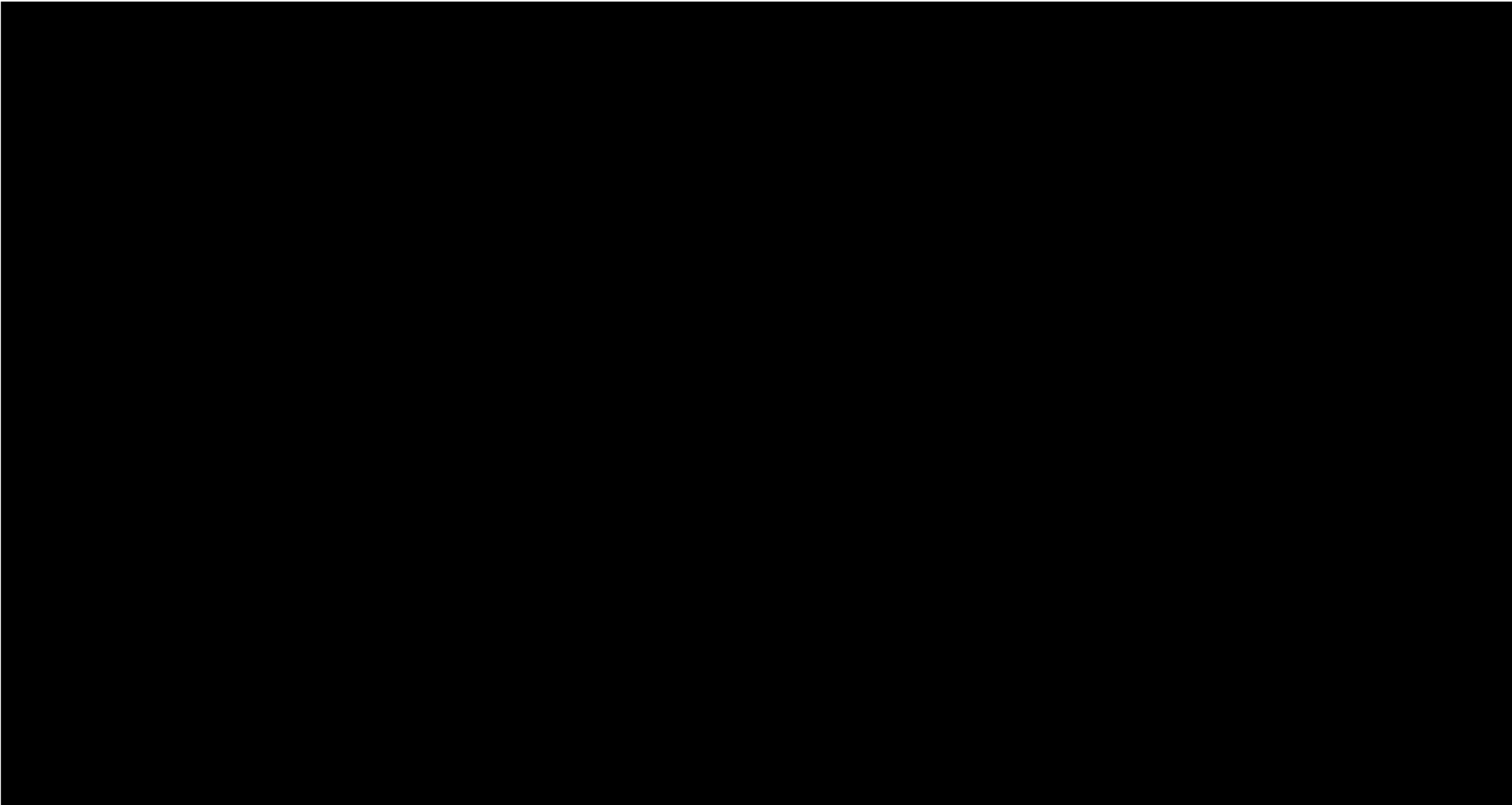
チョウゲンボウ雌（餌運搬）  
(2023年5月15日撮影)







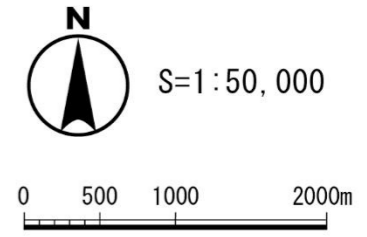




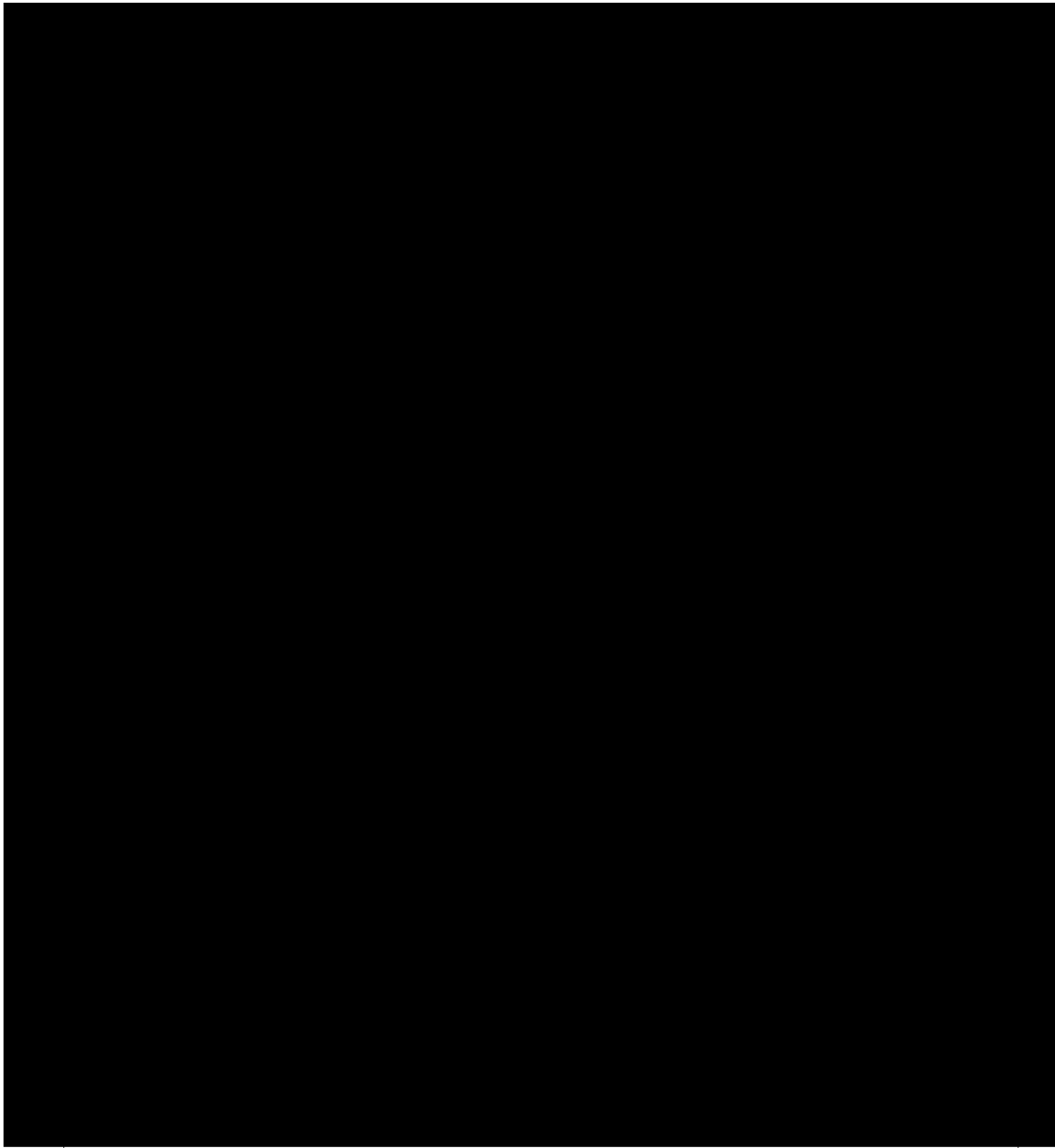
凡 例

名 称	記 号	名 称	記 号	名 称	記 号
対象事業実施区域		飛 翔	→	攻 撃	→✕
R4 新規繁殖巣※	☆	帆 翔		被 攻 撃	←✕←
古 巣※	●	と ま り	●	餌 運 搬	←→→→
定 点	■	旋 回 上 昇	◎	交 尾	⊗
		急 降 下	→→→	巢 材 運 搬	←→→→
		狩 り	→→→		
		探 餌	→▲		
		停 空 飛 翔	⑩		
		ディスプレイ	∩		
		鳴 き 声			

※：巣の名称のつけ方は、「確認年-通算番号」。  
 ※：R1-1は、H30-2と同一巣となる。



チョウゲンボウ確認飛翔図5月





# 別紙5：燃料輸送車の運行計画(案)

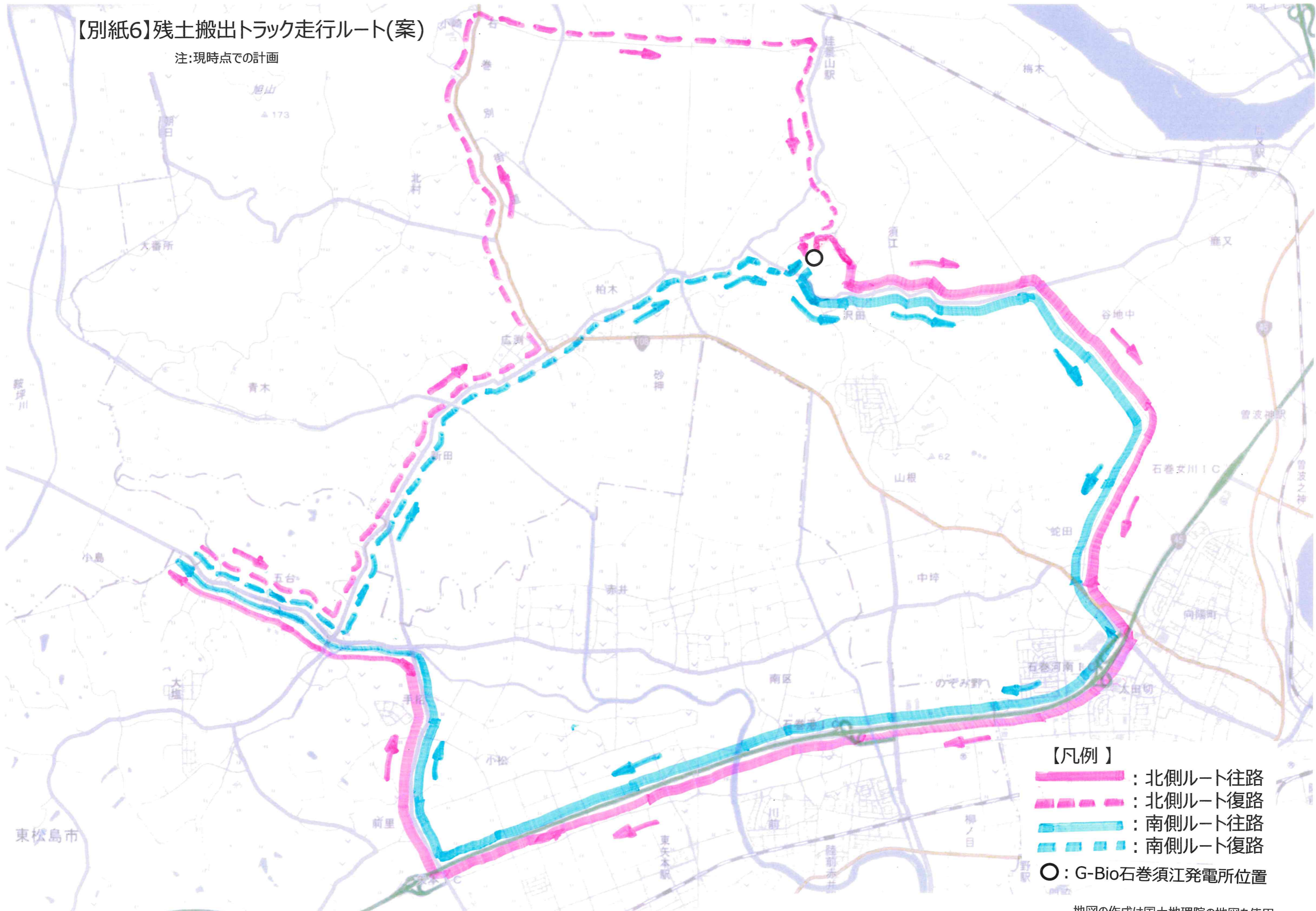
2023.09.08  
GBI

注)発電所周辺については、9:00～14:15の間で通行する。

	燃料輸送車 番号	往 路		復 路	
		石巻港出発時間	発電所到着時間	発電所出発時間	石巻港到着時間
第1グループ	1台目	8 : 40	9 : 10	9 : 55	10 : 25
	↓ 1分間隔 で運行	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔
	11台目	8 : 50	9 : 20	10 : 05	10 : 35
第2グループ	12台目	10 : 35	11 : 05	11 : 50	12 : 20
	↓ 1分間隔 で運行	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔
	22台目	10 : 45	11 : 15	12 : 00	12 : 30
第3グループ	23台目	12 : 40	13 : 10	13 : 55	14 : 25
	↓ 1分間隔 で運行	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔	↓ 1分間隔
	33台目	12 : 50	13 : 20	14 : 05	14 : 35

# 【別紙6】残土搬出トラック走行ルート(案)

注:現時点での計画



- 【凡例】
- (Solid Pink Line) : 北側ルート往路
  - - - (Dashed Pink Line) : 北側ルート復路
  - (Solid Blue Line) : 南側ルート往路
  - - - (Dashed Blue Line) : 南側ルート復路
  - (Black Circle) : G-Bio石巻須江発電所位置